

## 「東三河県庁(仮称)設置に向けたアドバイザーボード」(第2回)の概要

- 1 日時 平成23年10月12日(水) 午後2時30分から午後4時まで
- 2 場所 愛知県東三河建設事務所5階 大会議室
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 主な発言要旨

### 【東三河県庁の体制・仕組み】

- ・ 縦割り組織では、戦略的な話は難しい。企画調整部門が横軸でうまくコントロールしていく仕組みが必要。
- ・ 政策立案には地方機関のみでなく、市町村・民間も参画すべき。
- ・ 政策づくりのプロセスで、地域のコンセンサスを得ながら進めてほしい。地元に参加の機会を与えてほしい。
- ・ 「協議の場」は今までにない枠組み。現場主義の観点から最重要。政策議論の場として常設のものが必要。
- ・ 一定の予算や権限の移譲がなければ絵に描いた餅になる。
- ・ 予算、権限を持ってくるのは不可能。東三河をどうしていくのか、それぞれのテーマにおいて産学行政で考えて、県にはできる範囲で応援してほしい。
- ・ 東三河県庁という組織があること自体が地域にとって大きい。形から入って中身をつくっていくプロセスだと思う。
- ・ 東三河県庁の仕事に携わる人の意欲がすべてをつくる。庁内公募などやっつけていくことも必要。

### 【東三河県庁の役割】

- ・ 林業振興、山村振興など、これから一つずつ事業化して課題を解決していただいたい。
- ・ 東三河県庁の非常に大きな機能として、山村振興をいかに進めていくかという事は絶対に外せない。
- ・ これからは東三河県庁が率先して、三遠南信の広域観光を引っ張っていただいたい。
- ・ 東三河をどうしていくかを産学行政が一つになって取り組んでいきたいので、県のリーダーシップに期待している。
- ・ 施策を積み重ねていくことが大切だ。地域にお金を落としてほしいということではなく、地域と一緒にやっつけていくことが大切である。

### 【ビジョンづくり】

- ・ 東三河の中で何ができるのか、何をしていくのかという議論が必要。ビジョンが必要だと思うが、何かするには人も金もいる。
- ・ 東三河は奥三河から渥美の先まであり、地域ごとの様々な課題を集約したビジョンを整理してもらいたい。現場の声をよく聞いて取り組んでほしい。
- ・ 振興ビジョンはつくっただけと思われぬよう、アクションプラン的なものにしなないといけない。
- ・ 今まで人口とお金を指標にビジョンをつくってきたが、人口減少時代になり難しくなっている。幸福度という指標で測ってみることも必要。
- ・ 先導的なパイロット事業を官民連携で進め、成功体験を積み上げてほしい。産業の発展なくして地域の発展はない。モノづくり振興、観光振興など東三河県庁とともに取り組んでいきたい。

### 【広域連携】

- ・ 広域連携という点では、南信州や遠州と比べると少し遅れている。東三河県庁として、広域連携に積極的に関与してほしい。
- ・ 奥三河では三遠南信自動車道は鳳来ICが設置され、東京からの大動脈となる。第二東名も新城ICができる。発展のために、三遠南信地域連携の推進にしっかり取り組んでいく必要がある。
- ・ 三遠南信連携で難しいのは、これまで基礎自治体がずっと引っ張ってきた。県と県との連携はなかなか取れていない。
- ・ 静岡、長野との知事会議を復活させ、県単位の連携に取り組んではどうか。

### 【その他】

- ・ 東三河一体化の議論があったがうまくいかなかった。東三河県庁が改めて一体化の議論のきっかけになればよい。
- ・ 「東三河県庁」は選挙で県民が支持した言葉であり、これが堅持されていくことが大切である。
- ・ 県民各層へアピールしていく機会をつくってほしい。県民や企業は期待している。シンポジウムなど県民の皆さんに広くアピールしてほしい。

(文責：愛知県総務部総務課)